

# 研修医通信第70号 2016年8月号



鈴鹿中央総合病院 研修医2年目 永井岳

1ヶ月間と短い期間でしたが、紀南病院にて地域医療研修を行なわせていただきました。紀南病院では、鈴鹿中央病院と比較し、病床数や診療科、医師数などは少ないながらも、一般内科として行なっていることに大きな違いはなく、とても勉強になりました。若手の先生が多く、とても活気に満ちている様子でした。

診療所研修では、紀和診療所と桃取診療所に行かせていただきました。紀和診療所は、イメージしていた通りののんびりとした診療所で、外来患者も日によって違うとのことでしたが10人程度でした。訪問診療では、新宮市との境にあるような集落について行かせてもらいました。仕事の多くはdo処方でしたが、訪問診療を行うことで、とても広い地域の **primary care** を担っていました。桃取診療所も行かせてもらいましたが、紀和診療所とは違って患者数がとても多い印象でした。中には、重症疾患が疑われ、伊勢赤十字へ紹介となった患者もおり、その際の対応も見学することができました。

今回の地域医療研修にて、熊野地区における紀南病院や診療所のそれぞれの役割について学ぶことができました。1ヶ月間ありがとうございました。



三重大学医学部附属病院 2年目 大川真駒

紀南病院での研修も3ヶ月目になりました。

今月は今までで一番忙しかったです。8月の最終週に緊急手術が4件もありました。また、定期的な手術もあり、自分が第1助手（ホント恐れ多くも）でやらせていただく機会にも恵まれました。自分に足りないもの、責任感、術後管理など勉強することができたことを有りがたく思っています。指導していただけること、オペ室の看護師さんがそれを見て、機械や縫合糸、針をくださったこと、本当に感謝しています。今以上に邁進しなければと思いました。（ゆっくりペースですが）

そして、今月は2人のお見送りをしました。今までもしたことはありましたが、救急にCPAで運ばれてきた方にのみでした。紀南では、自分が受け持っていた方のお見送りで、初めての経験でした。患者さんのみならず、家族とのコミュニケーションなど、学ぶことはたくさんで、寂しいと感じることも、自分の無力感を感じることもありました。その方の人生の最後に立ち会うことで、得られたものをきちんと整理はできていませんが、大きなものを与えていただいたと感じています。そんな、花火もあり、花火後の静けさのような、少し秋の風を感じる8月でした。

9月は外科ラストの月です。10月からは、内科でお世話になります。また、よろしくお祈りします。



三重大学医学部附属病院初期研修医2年目の山本優花です。

1か月間内科研修でお世話になりました。学生時代にも実習でお世話になったことがあり、その頃とは変わったこと、今も変わらないことなど懐かしく思い出しながら過ごしていました。一番の驚きは、新病棟が建っていたことです。（笑）

往診の車の中で酔った診療所研修、やはり船で酔った離島研修、往復5時間かかった転院搬送、救急外来では来院時は話せていたのに目の前でCPAになった患者さんがいたり、無事症状が軽快し退院される患者さんもいれば、残念ながらお看取りさせていただいた患者さんもいて、よくこの1か月でこんなに経験できたものだと思います。

確かに、わずか1か月でこの地域の医療の全てを経験することは不可能だとは思いますが、1時間かけて救急搬送されてくる患者さん、老老介護が多い現実など、この地域に特徴的な医療の現状を垣間見る機会がありました。

週末には夏祭りや観光にも行ってきました。ありがたいことに花火大会にも行かせていただきました。かなりの人出で驚きましたが、それに見合う美しさ、迫力があり、リピーターがいるのも納得の花火大会でした。

改めて、1か月間お世話になりました皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました！